



Management Message

理事
米田 純一

サステナビリティ・ファイナンスによる SDGs への貢献

「相鉄・東急直通線」が2023年3月に開業を迎える予定です。本年は我が国の鉄道開業150周年となる記念すべき年ですが、当機構にとりましても、この相鉄・東急直通線のほか、長くかかわってきた西九州新幹線（武雄温泉・長崎間）がいよいよ9月23日に、また、北陸新幹線（金沢・敦賀間）も2023年度末の開業に向けて準備が最終局面となる重要な年となっています。

さて、この「相鉄・東急直通線」は、すでに開業しております「相鉄・JR直通線」とともに都市鉄道利便増進事業である「神奈川東部方面線」として計画されたものです。この建設にあたり、当機構は2017年、環境省グリーンボンドガイドラインへの準拠を確認した初のモデル発行事例として「グリーンボンド」を発行いたしました。これは鉄道の建設により、旅客がバスや自動車から鉄道へとシフトし、CO₂やNO_xの排出量削減といった環境改善効果をもたらすことが期待されている環境分野のファイナンスです。鉄道建設については、この「グ

リーン性」と合わせて、新駅の設置により周辺住民の利便性が向上するなど、地域の発展といった社会的課題の解決に資する「ソーシャル性」を持ちます。このことから、より資金の使途に相応しいファイナンスの枠組みとして、当機構は2019年1月に、第三者評価機関からのプログラム認証を取得し、同年5月に「サステナビリティボンド」を発行し、その後継続して当該枠組みによる債券発行を行っています。

昨今、SDGsに関するさまざまなイベントや報道などを目にする事が多く、この分野に関する社会の関心はどんどん高まっています。当機構の発行する債券については、昨年度、全国47都道府県すべての地域の投資家の皆様からの投資表明を獲得することができました。これは、多くの投資家の皆様が、資金提供を通じたSDGsの実現に貢献されている一環であると認識しています。こうした投資家の皆様の動向は、さまざまな事業主体の経済活動を、より環境に優しいもの、また、社会的な意義の高いものに変えていくことにつながります。資金の受け手である当機構は、サステナビリティ・ファイナンスを継続的に行うことにより、この市場の発展・活性化に貢献してまいります。